

令和元年第3回久万高原町議会定例会

令和元年6月13日

○議事日程

令和元年6月13日午前9時33分開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 諸般の報告

日程第4 行政報告

日程第5 一般質問

○本日の会議に付した事件

議事日程と同じ

○出席議員（13名）

1番 高橋末廣

2番 岡部史夫

3番 天野辰晴

4番 田村昭子

5番 川崎勝弘

6番 熊代祐己

7番 玉井春鬼

8番 瀧野志

9番 大原貴明

10番 中野克仁

11番

12番 中川武志

13番 日野明勅

○欠席議員（0名）

○説明のため出席した者

町長 河野忠康

副町長 高山稔明

教育長 小野敏信

総務課長 佐藤理昭

総務課総合戦略監兼
田村裕子

保健福祉課長 西森建次

情報政策推進室長

建設課長 猪上浩明

環境整備課長 釣井好春

| | | | |
|-------------|---------|---------------|---------|
| 林業戦略課長 | 菅 隆 則 | 住 民 課 長 | 林 克 也 |
| ふるさと創生課長 | 木 下 勝 也 | 農 業 戦 略 課 長 | 篠 崎 慶 太 |
| 会 計 管 理 者 | 中 川 茂 俊 | 病院事業等統括事務長 | 渡 部 定 明 |
| 教育委員会事務局長 | 辻 本 元 一 | 消 防 本 部 消 防 長 | 高 野 貢 |
| 代 表 監 査 委 員 | 菅 洋 志 | | |

○議会事務局

事 務 局 長 山 下 元 司

事務局

(朝 礼)

議 長

令和元年初の6月定例議会が開催されるにあたりで、御挨拶を申し上げます。

少子高齢化があいまって、経済の循環も停滞状況にある久万高原町の現状に鑑み、活性化する方策を、今、打たなければならない大切なときを迎えているといえます。大きな原因は、経済にあります。

経済は、経世済民の略であります。人々が豊かさを実感できるようにすることが、主な目的であります。

経済が循環するだけの資金が不足しているのが原因でありましょう。町全体が豊かさを実感できるための原資は、先人たちが培い、残してくれた山林に求めるしか、方策はないかと思えます。

資産となる人工林、約1,520万立米、昨年の財貨価格対比で計算しますと、約2,064億円の資産を持てることとなります。何が原因で、これだけの有益な資産が活用できないのか。今年から森林環境譲与税7,000万円余りが交付され、令和4年から14年の間に、約1億600万円の交付が予定されております。

現在こそ、林業の活性化イコール経済の好循環をつくり上げる、千載一遇の機会といえましょう。経世済民の意を再認識しながら、経済の好循環のシステムの構築こそ急務であります。行政の大きな責任でもありましょう。

議会からの提言も不可欠であり、全員の英知を絞り、豊かさの実感できる町になることを、心から願っております。

議 長

本日の出席議員は12名です。

定足数に達しておりますので、ただいまから令和元年第3回久万高原町議会議定例会を開催いたします。

(午前9時33分)

これより、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

議 長

日程第1、「会議録署名議員の指名」を行います。

本定例会の会議録署名議員は、会議規則第126条の規定により、1番高橋

末廣議員、2番岡部史夫議員を指名いたします。

議長 日程第2、「会期の決定」を議題といたします。
お諮りします。

本定例会の会期は、本日から6月24日までの12日間にしたいと思いますが、御異議ございませんか。

(異議なしの声)

議長 異議なしと認めます。
したがって、会期は本日から6月24日までの12日間に決定いたしました。

議長 日程第3、「諸般の報告」を行います。
地方自治法第121条第1項の規定により、町長以下関係者の出席を求めましたので、御報告いたします。

議員派遣の結果についてであります。

玉井春鬼議員が、5月21日、徳島県東みよし町で開催された、令和元年度四国土砂防災ネットワーク議員連盟役員会に参加した旨の報告がありました。

次に、5月28日から29日までの2日間、東京で令和元年度町村議会議長、副議長研修会に、日野議長及び中川副議長が研修会に参加し、研修を行った旨の報告がありました。

これで諸般の報告を終わります。

議長 日程第4、「行政報告」を行います。
町長より行政報告の申し出がありましたので、行政報告とあわせて招集の挨拶を求めます。

(河野町長を指名)

町長 挨拶を申し上げます。

本日は、第3回の久万高原町議会定例会を招集させていただきましたところ、議員各位におかれましては、御多忙の中、全員の御出席をいただき、厚くお礼申し上げます。

梅雨の時期に入りましたが、四国地方の梅雨入りは遅れているようで、今年と比較的過ごしやすい日が続いております。

天候不順による日照不足や、渇水による農作物への影響も心配をされますが、今のところ目立った被害もなく、ひと安心をいたしております。

一方で、大雨による土砂災害が心配をされる時期ともなりました。近年、各地で頻発しております土砂災害から人命や財産を守るため、土砂災害防止月間にあわせ、本町におきましても、さる6月2日、明神小学校を対策本部に見たて、明神地区の住民の皆様にご大勢参加をいただき、自主防災組織や消防・警察などの関係機関の協力に加え、愛媛大学防災情報センターから講師をお招きし、土砂災害防災訓練を実施いたしました。今後も、土砂災害防止に対する町民の理解と関心を深め、防災体制の整備と啓発に努めてまいりたいと考えております。

それでは、行政の動きについて、概要を御報告申し上げます。

初めに、企業誘致施策について御報告をいたします。

昨年より愛媛県との連携のもと、東京に本社をもちアウトソーシング業を営む株式会社ベネフィット・ワンに対して誘致の働きかけを行った結果、今年4月8日にサテライトオフィス「久万高原ベース」の開所に至りました。現在、同社では、町内で7名が新規雇用されておりますが、これからも雇用の場の確保や、定住対策の一助になるのではと期待をいたしております。

今後、光通信設備の整備なども契機とし、企業誘致を積極的に行い、本町の地域活性化、雇用促進を図ってまいりたいと考えております。

次に、4月14日には、農業公園アグリピアで、市民農園クラインガルテンの開園式を行いました。栽培講習会や石窯を利用したピザ焼きの体験交流会など、和やかなひとときを過ごしました。今後もクラインガルテンの利用を呼びかけ、都市部との交流を積極的に図ってまいります。

5月8日には、このたびの令和の大嘗祭に当たり、上畑野川の石田宏由喜氏が清流米を献穀されることとなり、松山市農業協同組合の「大嘗祭献穀お田植

式」にお招きいただきました。早乙女に扮した児童も参加をし、厳かに式典が行われ、新たな令和の幕開けに、平和で災害のない社会を願わずにはられません。

続いて、5月20日、21日の2日間にかけて、久万、面河、美川、柳谷の各地区において自治会長会を開催いたしました。農繁期でもあり、それぞれお忙しい中、自治会の代表として足を運んでいただきました自治会長さんに、町からの連絡事項をお伝えするとともに、地域の御要望や御意見をいただきました。

この会でいただきました要望や御意見などにつきましては、可能なものから迅速に対応し、まちづくりに反映をさせてまいります。

また、今年も久万高原土木事務所から所長を初め職員の皆様にも出席をいただき、県道や国道管理に関する相談なども聞いていただき、大変お世話になったことをございました。

また、5月22日には、下水道施設を有する県内16市町とともに、災害時の下水道施設復旧に向けた支援協力に関する協定を、全国上下水道コンサルタント協会、日本下水道管路管理業協会、日本下水道事業団と締結をいたしました。

この協定によって、大規模災害時に愛媛県を通じて支援要請をすれば、被害状況の調査や、復旧の計画、また、応急対策工事や災害査定資料の作成などに支援協力がいただけます。

昨年度は、南予地方で豪雨による大規模な災害が発生をいたしましたし、近い将来、高い確率で発生が危惧されております南海トラフ地震などの大災害に対し、住民生活の重要なライフラインであります下水道施設の早期復旧に向けた備えになるものと考えております。

6月10日には、面河地区地域運営協議会交通部会によって、公共交通空白地有償運送の本格運行が開始されました。地域交通対策協議会において御協議をいただき、昨年12月から実証実験を行ってきたものでございます。使用します車両は、モモンガ号と名づけられ、なごやかな出発式が行われました。

過疎地域に住む高齢者の移動という重要課題に対し、面河地区の渋草、笠方、相の峰、前組と、限定的ではありますが、本町にとっては大きな一歩となり得

るもので、今後とも既存の公共交通機関と協力し合って、交通弱者といわれる方々が少しでも減少するように努めてまいります。

それでは、5月末で平成30年度会計の出納事務が終了いたしましたから、決算の概要を御報告申し上げます。

令和元年に繰り越す事業の財源を差し引いた後の決算剰余金は、一般会計で約6億4,700万円、10の特別会計を合わせた決算剰余金は、約2億800万円となりました。また、3つの企業会計のうち、簡易水道事業会計は、約780万円の純利益となりましたが、老人保健施設事業会計は、約830万円の純損失、病院事業会計も約1,370万円の純損失となっております。

次に、今議会に提案する議案でございますが、今議会では、理事者提案の報告、議案として、工事変更請負契約の締結に関する専決処分の報告が1件、条例の一部改正に関する制定が5件、また、予算案では、令和元年度一般会計補正予算が1件、国民健康保険診療所事業特別会計補正予算が1件、凶荒予備事業特別会計補正予算が1件、町立病院事業会計補正予算が1件、久万高原町辺地総合整備計画の変更についてが1件、久万高原町過疎地域自立促進計画の変更についてが1件。平成30年度一般会計の繰越計算書の報告が2件、久万高原町国民保護計画の変更の報告が1件。

以上、報告4件、議案11件、合計15件でございます。

そのうちの、今議会に上程いたします補正予算について、御説明を申し上げます。

令和元年度6月補正予算額は、一般会計、国民健康保険診療所事業特別会計、凶荒予備事業特別会計、及び病院事業会計を合わせまして、総額で9,281万7,000円の増額補正で、6月補正後の累計予算額は154億6,832万8,000円となり、前年度同期の比較で5.4%の増額となっております。

このうち、一般会計の補正予算額は7,169万2,000円の増額補正で、累計予算額は94億2,697万4,000円となり、前年度同期比較で8.4%の増額となっております。

主なものは、10月からの消費税引き上げの影響を緩和するために実施いたします、低所得者・子育て世帯主向けプレミアムつき商品券事業費2,311万8,000円を、今年度創設されました森林環境譲与税を活用し、林地台帳

整備や森林管理システム業務委託料等の費用として5,026万円を、それぞれ計上いたしました。また、道の駅みかわ改修工事に係る費用として8,470万円を、道の駅みかわの売店・厨房の備品購入費として2,751万2,000円などの予算を計上いたしました。

なお、林道施設災害復旧事業費は、国の補助金が30年度予算で措置されたことに伴い、平成30年度3月補正で対応したことから、今回、令和元年度予算分1億6,391万円を減額いたしました。

次に、特別会計につきましては、国民健康保険診療所事業特別会計に43万5,000円を、凶荒予備事業特別会計に1,569万円を、それぞれ増額する補正予算となっております。

また、事業会計につきましては、病院事業会計の資本的収入及び支出の予定額を500万円増額する予算としております。

いずれも、十分な御審議を賜り、適切な決定をいただきますようお願いを申し上げます、行政報告並びに招集の挨拶とさせていただきます。

どうぞ今議会、よろしくお願い申し上げます。

議 長

日程第5、「一般質問」を行います。

通告により、発言を許します。

(大原貴明議員を指名)

大原議員

議席番号9番、大原貴明です。通告に従いまして、一般質問を行います。

上浮穴高等学校の存続に関する町の取り組みについて、お伺いをいたします。

上浮穴高校の存在は、本町の活力に直結をしており、子育て世代のU・Iターンなど、移住、定住の促進には欠かせない地域の宝そのものであります。

現在は、県立学校再編整備基準の該当法としてはリセットをされていますが、町内の児童・生徒数を踏まえ、町内2中学校から上浮穴高校への進学率を考えると、近い将来に、再び再編基準の該当校になることは、高い確率で考えられることです。

昨年度から、具体的に進んでおります、長期による寮の建設や、海外研修へ

の費用補助、またふるさと奨学金や通学費等補助など、従前からの補助制度を含めると、他の自治体と比較して、大変手厚い支援をしており、まさに町をあげて、上浮穴高校の存在に取り組んでいるとは思いますが、大幅な志願者数増加とはなっておりません。

県内全域や、全国から選ばれる学校になってもらい、上浮穴高校を存続させるには、これら既存の施策のPRを強化するとともに、町によるさらなる支援策を講じる必要があるのではないのでしょうか。上浮穴高校存続に向けました町の今後の取り組み方について、お伺いをいたします。

また、高校魅力化先進地では、地域と学校をつなぐ、地域と生徒をつなぐ、高校魅力化コーディネーターが重要な役割を担っていると聞いております。

町としてのさらなる支援策として、このような人的支援の導入を提案をいたしますが、町長の見解をお伺いいたします。

議 長 理事者の答弁を求めます。

(河野町長を指名)

町 長 大原貴明議員の質問にお答えをいたします。

上浮穴高校の今年の入学生は、普通科22名、森林環境課26名の、合わせて48名で、県の再編整備基準は満たしておりますが、この生徒の中には、町外からの入学生15名が入っております。

御案内のように、本年度より県外から入学できる生徒数が森林環境科の定員の3割まで拡大されるなど、今後の町内の中学校の状況を考えると、町外または県外からの入学生に期待せざるを得ない状況でもあります。

こうしたことから、町では上浮穴高校振興対策協議会を設置し、これまでも、御指摘のように上浮穴高校の存続に向けたさまざまな支援策を行い、生徒の確保に取り組んでいるところでございます。

昨年から実施の森林環境海外研修は、記憶に新しいところでもございます。中でも遠距離通学補助による町外からの生徒は30名を超え、朝のJRバスは、通学の生徒でほぼ埋まっている状態です。

今年4月からは、バス時刻の改正により、久万高原への到着が20分ほど遅くなったことで、JR四国の御厚意で、学校内までバスを乗り入れて、生徒を送って来ております。

また、今年度行っております寮整備により入学も、大いに期待しているところでございます。

今後の取り組み方については、光通信整備によるICT教育を充実させながら、オンラインで海外通信をし、直接、外国人と会話をして、語学力の向上を図る。また、幼・小・中・高とつながる上浮穴15年教育の確立を目指すなどとして、上浮穴高校の魅力化をさらにアピールをしまいたいと思っております。

一方、上浮穴高校でも、ホームページの発信のみならず、県外への進学希望者が大勢集まる地域未来学習フェスタに参加をし、生徒の確保に努力をしていただくこととなっております。

また、上浮穴高校に派遣されている地域おこし協力隊員は、学習塾に勤めていた経験もあり、校内はもとより、町民館や図書館等を利用し、学習指導を行うなど、高校魅力化コーディネーターの役割を担う人材として、活躍いただけるものと期待をいたしております。

今後も、上浮穴振興対策協議会を中心といたし、支援を継続し、さらなる魅力化の発信に努め、ひとりでも多くの生徒を確保できるよう、上浮穴高校の存続に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

議 長 (大原貴明議員を指名)

大原議員 上浮穴高校振興対策につきましては、答弁いただいたとおり、振興対策協議会で主に金銭的な補助をされておることは、私も重々知っておりますし、議会のほうも承知しております。

しかし、昨年、上浮穴高校で議会報告会を実施をいたしました。その際に、上浮穴高校のPTA会長が、学校の正式なアンケートではございませんけれども、保護者アンケートをとっていただきまして、およそ100名の保護者の方

に回答をいただいております。

その中で、町の補助制度につきましての設問があったんですけれども、補助制度自体を知らないという方が、実は17%回答をされております。また、補助は知っていても、町の単独の補助ではなくて、県であったりとか、国であったりなどの補助でないかと思っていられる方が、実は2割いるという結果が出ておりました。

大変手厚い制度だと思います。県内でも本当に例を見ないような、いい制度だと思うんですけれども、在校生の保護者にも、しっかりと町がやっているよと、伝わっていないというような結果が出ているのであれば、今後、進学を検討されている方には、もっと伝わっていないんじゃないかと思うのが、非常に危惧されます。

中学生の親であったりとか、県内のほかの進学を考えておられる方も、上高にこんな町が支援をしているということ、なかなか伝わっていないんじゃないかと思っています。

町の紹介のパンフレット、それから移住・定住のパンフレットに大きく、町がこれだけ支援をしていますよということを取り上げることも必要だと思いますし、また、町のホームページ、教育委員会のページだったと思うんですけれども、情報が記載されているんですけれども、文字ばかりで、なかなか見にくいかなと思いますので、これらの改善をして、まずはしっかりとPRを強化していただきたいということを提案するんですけれども、今後、これをやっていただけるかどうか、御答弁いただきたいと思います。

議長 (河野町長を指名)

町長 御指摘のところ、十分でないところが私も危惧をいたしておりますけれども、一つには、中学校で久万中と美川中になりますけれども、進路指導が熱心に取り組んでいただいておりますから、その都度、例えば入学準備金7万円というのが、大変ありがたく思っていると思いますけれど、そういったものがある等々、さらに中学校のほうで生徒指導の中でお話をしてほしいし、また、PTAの会の中でも、そのことをこれからお願いもしないといけないと思

いますけれど、PTA会員の中でも、そのことをさらにアピールをしていただきたいと思っておりますし、それから、特に砥部、あるいは松山方面の中学校に関しましても、それぞれ先生方が努力をして、的を絞って、中学校に出かけていただいておりますから、そのときにこのことをさらにアピールできるようにお願いをしたいと思っております。

それから、御指摘のように、多分にPR不足があるんだと思いますから、ホームページあるいは今おっしゃられた、寮も含めた、上高の今のPR版ができておりますけれども、寮整備を含めたPR版ができておりますけれど、その中に、そのことをもっと具体的にうたっていただけるように、工夫をしまいたいと思っております。

せっかくの上浮穴振興対策協議会の皆さんの計らいで、このことができておりますから、そのことを少し、PR不足のところもあろうと思っておりますから、そのあたり検証して、再度、宣伝に努めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

議長 (大原貴明議員を指名)

大原議員 移住・定住の促進、それから人口減少に少しでも歯どめをかけるためには、本当に地元の高校、当然、うちは1町に1校という、非常に恵まれた条件ですので、これは町の重要課題ではないかと考えています。

この質問の調査をするために、先日、上浮穴高校を訪問をして、教頭先生とお話を二、三時間したんですけれども、そのときに、教頭先生が、久万高原町に移住を検討されている方は、高校の見学もして帰る事例が大変多いよというようにお話をされておりました。

なので、地元高校の存在というのは、非常に大事だと思います。

昨年、総務文教厚生常任委員会で、静岡県のカノ川町というところを視察したんですけれども、ここの町長さんが、高校のない町に未来はないというようなことを職員におっしゃって、町の職員に危機意識をもたせて、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中でも、地元にあるカノ川高校の入学生徒数をKPIとして評価をすると。入学生徒数、ここも41人ということで、KPIとして評価

をするようにして、まちの重要戦略に取り組んでやっておられます。

うちの町も、金銭的な補助は本当に、先ほどから申し上げておりますけれども、全くひけをとらないようなことを導入していると思うのですけれども、それがどれだけの効果を生んでいるかとか、以前から同僚の議員からも提案しておりました公設塾、公営塾への支援。先ほど町長から答弁がありました、地域おこし協力隊を使つての、そういったことも考えられると思うのですけれども、今後、彼が終わった後、どういうふうにしていくか。公営塾にしていくのかというふうな検討。

それから、部活動の強化をしたらどうかというようなことも、議会から何度も提案をしていると思います。しかしながら、これについて、しっかりと調査研究をするような部署が、久万高原町の組織の中になんないんじゃないかと思ひます。

現在、教育委員会の担当者の方が個別に担当しておられて、おのおのしっかりと仕事をこなしていただいておりますとは思うのですけれども、腰を据えて、しっかりと取り組むということになったら、教育委員会の事務局の中、あるいは移住・定住という考えでいえば、役場の組織の中に、ひとつの小さな部署でもいいんですけれども、設けて、上高新興対策室とかいう名前をつけて、しっかりと対応していったほうがいいんじゃないでしょうか。そして、町外に向けても、町はやっているよということをアピールすることが大事だと思います。

町長、この春、総務課内にICTのまちづくりの情報政策推進室を設置されましたけれども、本当に地元高校の存在は、同じく町の未来を左右する重要課題ではないかと思ひますので、ぜひともそういうふうな形で、担当をしっかりと決めていただいて、部署として名前を持っていただいて、これら、今まで議会が提案したことについて、検討、研究をしていただきたいと思いますと思うんですけれども、いかがでしょうか。

議長 (河野町長を指名)

町長 今、上浮穴高校の必要性、それから永久にここに存続をしないといけない学校というのは、大原議員も含めて、私も含めて、町民の皆さんは等しく同じ考

え方であろうと思っております。

かつては県立高校というところでもございましたし、また町の人口も、その頃はたくさんいたわけでもございまして、どこかで県立高校というたてりがあったものですから、もうひとつ積極的に、お互いがリンクをして、協力をし合いながらというところは薄かったと思えますけれども、ここ近年にまいて、上浮穴高校の大切さというのが、浮き彫りにされているところでもございまして、ここしばらくの間は、非常にそういうことでは連携が、私自身はとれていると思っておりますし、また、近年は、繰り返しになりますけれども、さっき申し上げたようなところの後押し、それから寮にしてもそうですし、森林環境課を中心とした海外視察もそうであろうと思っておりますのでございます。

しかし、おっしゃるように、まだまだ十分でないところはあるかも知れません。今、教育委員会のほうは、小野教育長が足をたびたび運んでいただいて、いろんなところを、例えば小・中学校、高校でのICTを利用したそういったもの。それから、役場内においても、先ほど申し上げましたように、外国の方と直接、お話をするような、ICTを活用した事業、そういうものを今、鋭意取り組んでいるところでございます。

ですから、そのあたりは、現状において、非常に積極的に、私は取り組んでいるように思いますが、なお今の大原議員の提案は、御意見として承って、今後、課の強化ということももちろん、教育委員会だけではないのですけれども、課の強化という点の中に、また大原議員のお話を十分に腹に置いて、対応をしてみたいと思います。

以上でございます。

議長 大原議員、よろしいですか。

大原議員の本件に関する質疑は既に3回になりましたが、会議規則第55条のただし書きの規定によって、特に発言を許します。

(大原貴明議員を指名)

大原議員 最初の答弁の中で、幼稚園からの15年計画ということで、取り組んでいく

というお話があったんですけれども、実際に入学したいと。それから、保護者がさせたいと思っておられる学校づくりのためには、町内の、今、中学校のPTA会長が振興対策協議会に入っていると思うんですけれども、実際、私も小学生の子供がいるんですけれども、小学校のPTAの皆さんや、あと幼稚園の子供さんをもっている親から聞いても、私らも、こんなことだったら、上高に行かしたいよねというような意見を、結構聞きます。

残念ながら、それを上にあげる機会がないという話は、よく聞きます。

振興対策協議会、しっかり私も議論をされておると思うんですけれども、まずはそういう幼稚園ぐらいからの保護者、幼・小・中ですね。それから町内の移住者の方々が集まって、上高、こんなことがあったらというのは、ざっくばらんにお話ししていただいて、それを例えば教育委員会の事務局が来ていただいて、それをつないで、振興対策協議会で議論をしていただくというようなことも、非常に私は重要になってくるのではないかと思うんですけれども、ぜひとも、せっかく寮も今年できますし、寮をどういうふうにしてもらいたいというような意見を、保護者の皆さん、それこそ若い保護者の皆さん、もっておられると思いますので、そういう場をつくっていただいて、振興対策協議会の議論が、もっと活性化して、いいようになっていただくようにしていただきたいんですけれども。

どうかそういった若い方々の、学校に上高に対する意見を吸い上げてもらう場を、ぜひとも町の主導でつくっていただきたいと思うんですけれども、その件につきまして、最後に御答弁いただきたいなと思います。

以上です。

議 長 (河野町長を指名)

町 長 理想の姿であろうと思っておりますし、幼稚園、小学校のときから上浮穴高校を意識をしていただくということは、大変大切なことだと思います。

そのあたりは、また上浮穴高校振興対策協議会、近々また会合もございますけれども、その中の話題提供として出させていただいて、上浮穴高校振興対策協議会で取り上げるのか、あるいは別の形でそういう懇話会を設けるのか、そ

のあたりは預からせていただいて、検討をしてみたいと思います。

議 長 大原議員、よろしいでしょうか。

(大原貴明議員を指名)

大原議員 済みません。上高の寮に対することなんですけれども、来年4月から入ると
というような予定で、多分進んでおられると思うんですけれども、いまだにどう
いう特色をもたせるのであるとか、そういった情報が外に出てきていないとい
うのを、非常に危惧しております。

これ、ぜひとも早く検討をしていただきたいし、何か、町長でも結構ですし、
教育長でも結構です。その寮を使って、上高をこうしたい、せつかくの設置者
ですから、思いがありましたら、最後お聞かせいただきたいなと思います。

以上です。

議 長 (小野教育長を指名)

教 育 長 大原議員の質問にお答えをいたします。

まず、寮の前に、若干、先ほどからの御質問で、私なりの見解を少し述べさ
せてもらいたいと思うのですが。

入学補助金、17%の方が認識が不足しているんじゃないかというようなこ
と、これについては、ふるさと奨学金、あるいは通学補助金と、大きく性質が
違うところがございます。

例えば、ふるさと補助金ですと、自分が手を挙げ、応募して、選考され、そ
して採用通知があつて補助金が支給される。そういうことで、本人に自覚が非
常に大きいわけなんですけれども、入学補助金に関しては、一律に補助金をいた
けるということで、いつの間にか振り込まれているというようなところがあ
るかと思えます。

そういうことで、非常に認識が薄い補助金だろう。それだけに、高校もPR
を、今後、強化していかなければなりませんし、中学校も、進路指導の機会を

捉えて、このことは、町の補助を大きくPRをしていくということに力を入れていく必要、御指摘のとおりだと思っております。

それから、寮の活用についてですけれども、これから寮の運営について、教育委員会として、具体的に審議会を通して提案をしてみたいと思っておりますけれども、若い人たちの力を活用した寮運営、そのことに努めたいと思っておりますが、例えば、寮長にしても、そこら辺で慎重に、高校生の自治活動を生かした寮運営をしていきたいというふうに思っております。

それから、上浮穴15年教育とつなげながら、この寮運営を生かした形で検討をして、いろいろと提案をさせてもらおうと思っております。

以上です。

議長 大原議員、よろしいですか。

(大原貴明議員を指名)

大原議員 私が聞きたかったのは、生徒による自治運営というのは、非常にいい考えだと思うんですけれども、寮を使って、どういうふうな特色づけをしていくのかというお考えがおりますかということをお聞きしたので、そういう考えをお聞かせいただきたいなと思います。

議長 (小野教育長を指名)

教育長 大原議員の御質問にお答えをいたします。

例えば、コーディネーターとして、役割を果たしていただきたいと思っております。地域おこし協力隊の隊員などは、学習塾の経験を豊富に持った方でございまして、寮を拠点に、公営塾のような形も、これから考えられるのではないかな。そんなさまざまな提案を、今後、具体化していきたいと思っております。

それから、教育委員会事務局の中に、指導員を4月からおいていただきました。この指導員が町と高校をつなげる、あるいは中学校と高校をつなげる。それから、15年教育の中に高校をしっかりと位置づけていく、そういう役割を

果たしてくれるものと期待をしております。

以上です。

議 長 (河野町長を指名)

町 長 今、教育長からあったこと、具体的でございましたけれども、大切なことは、このすばらしい自然環境の中に位置している高校ということで、皆さんもそうでしょうし、私もそうですけれども、常々久万高原町、もっと宣伝していいんでないですかというようなお声も十分に聞いております。

最大の魅力は、やはりこのすばらしい自然の裾野の中で、自立をして、この環境の中で、林業のことやら、あるいは農業のこと、非常に都会にはない空気の中で、頑張っていけるということが、私は最大の魅力だと思っておりますし、それから今、都会に住む若い人たちも、自然回帰、あるいは地域にいきたい、そういう希望もたくさんあるように聞いております。

そういう時代を迎えておりますから、今、上浮穴高校で全国に発信しておりますけれども、まだ具体的には数はまいっておりませんが、そういうことで、この地域で勉強できるという魅力は非常に大きいものがあると思えますから、そのあたりが最大の魅力でもあろうと思えます。

また、親元を離れて、高校生になりましたら、思春期のこともありましようから、一人で生活してみたい、そんなところも少しかねられるのかなと、そんなところも思っております。

私たちの昔とは、高校生の考え方も随分と自立型になってきておりますから、そういう点ではさまざまな、今申し上げましたような観点から、私はここで寮を開設するというのは、一つの大きな目玉となっていくのではないかと考えています。

以上でございます。

議 長 大原議員、よろしいですか。

ここで暫時休憩いたします。

(午前10時17分)

(休 憩)

議 長 休憩前に引き続き、議会を再開いたします。 (午前10時39分)

その前に、大原議員の質問に対しまして、もろもろのやりとりがありましたけれども、町長のほうから、最後の段階で不適切な言葉が皆様の耳に入りました。これは議会に対する信頼を失うものでありますし、町長の見解を聞きたいと思えます。

その件について、町長の答弁を求めます。

(河野町長を指名)

町 長 大原議員と同じように、上浮穴高校の振興対策については、真摯に、懸命に考えているつもりでございまして、その中で、私の不適切な発言が、申し上げたところに関しては、謹んでおわびを申し上げ、訂正をさせていただきたいと思えます。

申しわけございませんでした。

議事録のほうから削除をお願いしたいと思えます。よろしく願いいたします。

議 長 大原議員、よろしいですか。

それでは、一般質問に入ります。

(岡部史夫議員を指名)

岡部議員 議席番号2番、岡部史夫でございます。通告に従い、質問をいたします。

令和という新しい年号にかわりましたが、まちづくりの現状においては、町内における主産業である農林業の所得向上対策や、若者が定住可能な雇用対策などでは、計画のわりには目立った進展が感じられず、特に地域経済循環の中で、産業別生産額が上位である林業における各種プロジェクト事業が進められておりますけれども、儲かる林業のきざしが見えず、先般、議会から提案、報

告した、未来へつなげる林業の取り組みにつきましても、検討する気配が感じられず、素晴らしい森林資源を未来へつなげることができるのか、大変心配でございます。

そのような中、森林環境整備の救世主ともいえる、本年から実施される森林経営管理制度につきましても、既に国からガイドラインが示され、町においても、万全の準備をされているはずであります。民間事業者側の人手不足事情のさなか、制度実施に向けて、町は採択する民間事業者を果たして確保できるのか、心配です。取り組み概要についてお伺いします。

議長 理事者の答弁を求めます。

(河野町長を指名)

町長 岡部史夫議員の質問にお答えをいたしたいと思います。

お話もございましたように、森林経営管理制度は、森林所有者みずからが森林の経営管理を実行できない場合に、町が経営管理を委託を受け、林業経営に適した森林は、意欲と能力のある林業経営者に再委託をし、林業経営に適さない森林は、町が管理を実施するものであります。

議員御指摘の再委託をする民間事業者ですが、まず林業経営に適した森林に関しては、愛媛県が公募をし、一定の基準に適した事業者が選定、公表されることとなっております。この公表された民間事業者の中から、公正な方法で町が選定をし、経営管理実施権を与え、施業を実施することとなります。

現在のところ、民間事業者の選定に関する国の基準が示されていませんが、県としては、9月ぐらいには公表をしたいとのことでございます。

また、林業経営に適さない森林に関しては、森林環境譲与税を財源として、町が事業発注を行います。この発注先は、県が公表した事業者以外に、広く町内の事業体を努めたいと考えております。

担い手の確保が、この事業を左右するものであります。今回の補正におきましても、林業経営意欲の向上、起業を目的に、林業機械導入補助金の増額を上程もしてございます。今後も引き続き、森林環境譲与税を積極的に活用し、林

業技術の向上、資格取得や、安心して働ける福利厚生の実施などを図るとともに、新規就業者を募り、担い手確保に努めたいと考えております。

以上でございます。

議 長 (岡部史夫議員を指名)

岡部議員 森林経営管理制度実施に伴う町の専門職員の不足は、深刻な問題であります。多くの市町で具体的な実施内容の目処がたっていないようにもお聞きしておりますが、しかし無策であってはならないと思います。

森林の経営管理が難しくなっている中、森林管理システムに携わる職員に求められるノウハウは、製材や流通、加工、バイオマス利用など、幅広い知識が必要になります。

しかしながら、林業先進地のこの町においても、長年にわたって林業職採用に余り積極的でなかったことは、人材を生かした、先進的な取り組みの遅れをとり、長きにわたる地域林業低迷の原因の一つにもなったともいえるのではないのでしょうか。

今回の森林経営管理制度実施前にも、専門職員不足について質問をした経緯もありますが、その後、体制強化などの対策を講じた形跡は見られません。

為政者として、政治的レガシーを残すことの使命の一つではあると思いますが、今回の制度実施に向けた町長の取り組む決意をお聞きしたいと思います。

議 長 (河野町長を指名)

町 長 これは、議員と同じように、町の基幹産業の農業とともに、大変大事なところにあることは、私も承知をしております。

ゆえに、私にらせていただくようになりましてから、御案内のように、これまでの林業課を林業戦略課と銘うって、農業とともに、この2つを積極的に活性化をしていこうと、そういう姿勢を皆さんにもお示したところでもございますし、ことここに至っては、非常にひとり親方、あるいは自伐林家の動きも、大変活性化を見てきているように思います。

従来の森林組合を中心とした事業体に合わせて、そういうところも活発に動きを始めておりました、まだまだ最終的な林家のところに、手元に、昔のように、十分潤沢なお金が残っているようにはなっていないわけでございますけれども、その担い手の皆さんのところでは、非常に活況を帯びたところでもございます。

これは、一つの新しい動きとして、大変うれしく思うところでございますが、あとは林家にお金をいかに残していくか、このことに特化をされるところでございまして、御案内のように、森林組合とタッグを組んで、活性化プロジェクトを形成しておりますが、これは議員御案内のように、団地化をして、見積もりを出して、お金を残していく。そういう試みでございます。

1, 000町歩の目標でございますけれども、多少の人員不足等となって、少し目標には達しておりませんが、このことについては、再度、打ち合わせを課長とともに行っておりますけれども、強化をしてまいりたいと思っております。

それから、森林環境譲与税のところに、お話をされました。今期7, 000万という大金が、我が町にもまいります。これは、県下で特出した予算額でございまして、県のほうからも、この森林環境譲与税を使うということについては、私どもの久万高原町に大変大きな期待をいただいております、その期待に応えなければならないわけでございます、先ほど申し上げております森林管理、それから担い手の確保等々に十分活用してまいりたいと思っておりますし、聞くところによりますと、他の市町では、なかなか具体的に計画は立たないので、今後、これから検討をしていくというようなお話もありますけれども、私どもの町としては、県内において、トップリーダーとして、そうではなくて、この譲与税、万度に使って、今、申し上げた施策が、早速にスタートできるように努めていきたいと、そのようにも思っているところでございます。

以上でございます。

議 長 (岡部史夫議員を指名)

岡部議員 森林経営管理制度実施は、崩壊しかけていた森林環境をよみがえらせるため

の施策であると同時に、この制度を有効に活用することにより、今までテコ入れができなかった部分の施策を推進し、素材生産高を30万立方メートルまで増やし、希少性の高い、高品質材の有利販売など、あわせて捨てられていた多くの未利用材の計画的な搬出体制を構築することで、林業生産額を増やしていけば、町内の経済の好循環を生むことにつながっていくものと考えます。

そのことが、町内の幅広い年代における経済対策、雇用対策にプラスの影響を与えることと期待できますが、この町の経済的自立の指標である地域経済循環率が、数値が幾らなのかをお伺いしたいと思います。

この地域経済循環率という数値は、計画的なまちづくりを推進する上で、大変重要な指標であると理解しておりますが、御答弁をお聞きしたい。

議 長 (菅林業政略課長を指名)

菅 課長 岡部議員の質問にお答えいたします。

経済循環率は幾らかということですが、経済循環率は71.1%でございます。

この経済循環率とは、生産を所得で除した値でありまして、地域経済の自立度を示しておるものでございます。値が低いほど、ほかの地域から流入する所得に対する依存度が高いというような数値を表しておるようです。

調べてみますと、県内9つの町の中で、3番目に久万高原町は高いというような数字が出ております。

松前91、砥部77、久万高原71というような数字になっております。そのようなことが、結果が出ておるようでございます。

以上です。

議 長 岡部議員の本件に関する質疑は既に3回になりましたが、会議規則第55条ただし書きの規定によって、特に発言を許します。

(岡部史夫議員を指名)

岡部議員 今、担当課長から数値が示されてましたけれども、71%と、非常に低い数字です。だからこそ、主産業である林業に力を入れなくちゃいけないというのは、当然のことです。

今回の制度を実施する上で、先ほど、町長の答弁にもありましたが、再付託できない森林については、町、自らが施業などを発注しなければなりません。今、多くの先進的な自治体では、自伐型林業に着目し、その人材育成を積極的に進め、地域ごとで自伐型林業を展開する姿に、その注目が集まっております。

この取り組みは、今回の森林経営管理制度実施におきましても、大きな事業体とともに、大きな存在となるものであります。このことについて、町も積極的に取り組んでいくべと考えますが、いかがお考えかお聞きしたいと思います。

ただ、今後、検討していくなどという悠長な答弁だけは、ぜひとも差し控えていただきたいと思っております。

以上です。

議長 (菅林業戦略課長を指名)

菅課長 岡部議員の質問にお答えいたします。

林業事業体、大きく成長しておりますが、やはり議員の言われたように、これから自伐林家にも力を入れていかなければならないと考えております。

それから、先ほど言いましたように、事業発注をするにしましても、事業体がどうしても足りないというようなことになっておりますので、そのあたりに力を入れてまいりたいと思っております。

先日も宇和島市のほうに補助の勉強に行かせていただきました。先進的な取り組みをやっておるところもありますので、そのような例を参考にしまして、自伐林家向けの補助事業等を充実させたいと考えております。

以上です。

議長 (岡部史夫議員を指名)

岡部議員 先行している先進事例の自治体などの内容を参考にした場合、地区ごとで自

伐林業が展開をされる。そして、そのことによって、地域では自伐型林家が施業をする。自伐型林業の地域外では、森林組合等が整備をすることとし、また、森林組合の繁忙期には、自伐型林家を臨時雇用するなどして、町内全域における計画的な施業が実現できるなどの連携効果が期待されます。

いわゆる自治体が山林所有者を対象に、自伐型林家を育成していけば、所有者自らが所有林を管理したり、集落在住の自伐型林家に管理を依頼することにより、管理不足そのものが解消に向かっていくと思われます。

町内在住の小規模林家などを含めて、リカレント教育をしていけば、数十人ぐらいの自伐型林家育成は可能であります。

そして、そこに家族が増えれば、人口増や木材生産増に大きく貢献することになります。この自伐型林業を推進するためにも、自伐型林業推進協議会の設立がぜひとも必要であります。

一刻も早く設立する方向で、行政もその動きを早く見せるべきではないでしょうか。

議長 答弁を求めます。

(河野町長を指名)

町長 お話あったように、ひとり親方を含めて、小グループのところは今、結構たくさんの方々が入っております。その活躍の様子は、日々、直接お聞きもしておりますし、若い人たちが、特に参画をいただいているところがございますから、大変、心丈夫でありますし、大いに期待をいたしております。

今おっしゃられた自伐型ということになれば、これは昔からチェーンソーと、それからチルホール等で、それぞれ作業をしていたこと。岡部議員、林業の造詣深いからよく御存じだと思いますけども、しばらく、その文化、林業の文化というのが少し途切れて、施業ができなくなっているところがあると思えますけれども、しかし今、お聞きしますと、そういう動きも出てきておるようにも聞いておりますし、また、さっき課長からお話ございました、農業戦略課のほうでは、林業の新しく移住も含めた担い手の方に補助を出して、これは林

業、危険も伴いますから、明日からというわけにはいかないの、リカレントも含めて、指導というのは必要になってまいりますから、その辺の育成のあたりを十分に認識をして、これからの行政に携わってまいりたいと思っておりますし、また自伐型の提案の林家の協議会につきましては、検討をさせていただきますと思っております。

繰り返しになりますけれども、今、大いなるチャンスもきておりますし、また私たちは愛媛県下先駆けて、先頭を走る責務も持っておりますから、今、議員が御指摘をいただいたこと、十分に認識をしながら、林業行政の運営に努めていきたいと思っております。

以上でございます。

議長 (岡部史夫議員を指名)

岡部議員 今後、検討を進めていくという、そんな状況ではないと思います。早く進めていかないと、たちまちの森林管理制度、これの不採算部門の地域、あるいは施業を誰が担うのか、これは誰も担う方がいっしょになかったらどうしていくのかと。大変な問題なので、検討なんていう悠長な時期ではないと思います。

自伐型林家が活躍している事例を、最後にお示しして、終わりしたいと思います。

例えば、宮城県の気仙沼市、ここでは木質バイオマス熱電供給、ここで自伐林家が、その容量、燃料材の2割を自伐型林家が調達しております。かつ、自伐林家の研修を行っております。現在、受講者が530人以上と聞いております。

こういったことで、利用されなかった森林からバイオマス材の生産利用を実現しております。

もう一つ、愛知県の岡崎市の額田地域です。ここは地元林家が伐採した材を、市場に出荷するのではなくて、丸太で地元の製材と連携をして、収益をあげております。

例えば、丸太で数字に出ているのが、12.6立方を、市場価格に直しますと、大体19万くらい、値段もいいところだと思うんですが、19万くらいで

す。

地元製材と連携して、床材で販売すれば153万の地域内付加価値額を実現をしております。

この自伐型林家の軽トラックによる運材で、原木は2メートル材での出荷と聞いております。製品ももちろん2メートルベースの床材でございます。

こういった地域の中で工夫をして、知恵を絞って、結構な収益を上げている事例もございます。ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

地域の資源、地域の人材が躍動することで、地域の経済的自立を確保することは、地域の願いでもあります。かつ死活問題でもあります。今後の林業において、地元にとりだけの付加価値額を生み出すのかが必要であります。そこで行政は懸命に力を傾注していかなければならないと思います。

林業戦略課の職員が進むべき道をしっかり進んでいただくためにも、攻めの体制を構築して、事業を推進していただくことを強く要望して、質問を終わります。

議長 答弁は。

岡部議員 答弁必要ありません。

議長 岡部議員の質問を終わります。
続きまして、4番、田村昭子議員。

(田村昭子議員を指名)

田村議員 4番、田村昭子。通告に従いまして、質問を行います。

最近、子どもたちを巻き込んだ事故や事件が非常に多く、そういうニュースが特に多いと思ひまして、心を痛めております。

教育委員会におきましては、急ぎ、万全の対策に取り組まれていることと思ひます。

特に、今回は学校関係で一番古い建物である久万幼稚園の園舎の建築は、4

0年以上経過しておりまして、壁の大きな亀裂が全体にあるなど、保護者の不安もありまして、先日、幼稚園を伺いまして見せていただきました。

災害、特に大きな地震等があったときには、危険な状態であると痛感いたしました。

特に、自分の身をかばうことのできない小さな子供たちの安全を、どのように守っていくのか、今後の対応を町長にお伺いします。

議長 理事者の答弁を求めます。

(河野町長を指名)

町長 田村昭子議員の質問にお答えをします。

久万幼稚園は、昭和52年に建築をされ、御指摘もございましたけれども、築後41年が経過をいたしております。鉄筋コンクリート2階建てで、町内の幼稚園の中では、一番古い建物でございます。

平成18年に園舎の耐震診断を実施してございます。耐震基準は満たしていると判定を受けておりますが、お話もございましたように、近年、玄関の天井部が落下する、老朽化の風合いが発生している状況でもございます。

私自身も、一昨年末、久万幼稚園に出向き、園舎の状態は確認しているところであり、幼稚園の整備は喫緊の課題であることを認識をしておりますし、町の今後の財政状況を総括的に見通していく中、中長期財政計画にも計上し、整備に向けた検討をいたしているところでございます。

今後もさまざまな教育整備の施設の整備が想定されますが、私たちが目指しております安全安心なまちづくりのためにも、緊急度や、あるいは優先度を考慮し、計画性を持って整備に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長 (田村昭子議員を指名)

田村議員 今、町長から御答弁をいただきましたが、何年度に改築をするとか、そうい

う計画まではできてないのでしょうか。今後ということでしょうか。近いうちということでしょうか。

もしそういう計画があるようでしたら、お聞かせいただきたい。

議 長 (河野町長を指名)

町 長 これまでは、特に耐震性を充足してない施設について、これはもう優先をせざるを得ないところございましたし、また、町の光ケーブルであったり、あるいは防災無線であったり、あるいはまた、寮の整備もございますけれども、そのことも重なりまして、少し先送りをされている感は、御指摘のようにあろうと思います。

ただ、先ほど申し上げましたように、中長期の財政計画の中で、このことを今、庁内でも検討をいたしているところがございます。その中長期財政計画では、令和2年度に設計費を計上し、また令和3年には、整備費をそれぞれ登載をして、この久万幼稚園の改築に当たりたいと、そのように具体性を持ってございます。

しかし、今、御指摘のようなところもございますから、そのあたり、しっかりとスケジュールにあわせて進めていくような努力は、当然してまいりたいと考えております。

以上でございます。

議 長 (田村昭子議員を指名)

田村議員 数年前から幼稚園の改修については検討されておりますので、できるだけ小さい子供たちのことですので、この計画が伸びないように、今後、実施していただきたいと思っております。

そして、町長の答弁で、令和2年に設計、3年には新築ということで検討をしているということで、ちょっと安心をいたしました。

保護者の方々も、同じような思いではないかと思っておりますので、ぜひ遅れないようにお願いします。

遊びを通した、人や自然との触れ合いと、心身の調和的な発達を目指しておられる久万高原町の幼児教育の推進を目指しておられますが、また時代の流れでも、ICTの教育にも力を入れていかねばなりません。

そういう中でも、新しい久万幼稚園の建設に当たっては、日々幼稚園教育に当たっておられる現場の先生方の貴重な御意見を大切にすべきだと考えております。

つきましては、令和2年に設計に入られるということでありますならば、今年度中に先生方の声をしっかり受けとめる機会を持っていただいて、その現場の声を建設に、設計の段階から生かしていただきたいと考えます。

そして、久万幼稚園が、家庭から初めて社会につながる幼児が、安全で安心な生活の場となりますように、そういう教育の場になったらと思いますが、教育長さん、今後の実務的な段階としてどのように取り組まれていけますか。

議 長 (小野教育長を指名)

教 育 長 田村議員の御質問にお答えをいたします。

上高の寮建築に一定の目処がつきましたので、今後、幼稚園の検討につきましては、大規模改修、あるいは改築を含めた検討を進めてまいりたいと思っております。

その折に、御指摘のありました幼稚園教諭の声なども反映させながら、この計画に当たりたいと思っておりますが、幼稚園教諭の中に管理職を設けましたことも、ひとつこうした上浮穴の幼児教育全体を見通す中で、久万幼稚園の果たす役割、それから、これから園舎の建築など、十分、声を拾いながら進めてまいりたいと考えております。

また、よろしく願いをいたします。

議 長 田村議員、よろしいですか。

田村議員の質問を終わります。

続きまして、6番、熊代祐己議員。

(熊代祐己議員を指名)

熊代議員

6番、熊代祐己でございます。通告により、質問させていただきます。

少子高齢化、人口減少による働き手の不足について。

現在、久万高原町の働き手は足りているのでしょうか。町の基幹産業である農林業を初め、各企業、行政機関、医療、福祉、介護、教育など、さまざまな業種で人手不足は起きていないのでしょうか。

町内でも、仕事はあるが、働き手がないというふうなことを聞いています。

町も、広報で求人情報の紹介、職業紹介などをして対応していますが、現状はいかがでしょうか。

また、町の職員は国や県、各市町と比較して、現状を適正な人数で対応できているのか、お聞きします。

以上です。

議長

理事者の答弁を求めます。

(河野町長を指名)

町長

熊代祐己議員の質問にお答えをいたします。

まず、求人情報の職業紹介についてですが、町では、現在、人手不足の解消や、スムーズな移住に向けて、町内の求人情報を収集して、町の広報などを通じて、町民や移住希望者の皆様に情報提供を定期的に行っております。

求人を登録している町内の事業者は、小売り、介護、医療、土木、農林業など、さまざまな業種にわたっており、現在、33の事業所から約90名の求人があり、この数は年々増加傾向にあります。

本事業は、今年で3年目を迎えておりますが、これまでの実績として、問い合わせが23件、実際にこれによって就業をされた方が12名、その内訳は、町内の方6名、移住者6名となっております。

次に、町職員の状況についてでございますが、町村合併直後の平成17年4月時点での町職員数は、429名おりましたが、今年の4月現在は、335名

と、94名の減少を見ております。

また、本町と他の自治体のうち、類似団体との普通会計職員数を、昨年4月時点で比較してみますと、本町が3割程度多い状況でございます。

しかしながら、本町は、御案内のように面積が広大であることや、これに伴って、集落が点在する行政効率の面から考えますと、現状の職員数は必要であろうと考えております。

さらに、本町は、町立病院や老人保健施設、養護老人ホーム、消防本部などを設置運営をしておりますして、職種も多岐にわたり、人員の確保に懸命に努めているところでございます。

以上でございます。

議 長 (熊代祐己議員を指名)

熊代議員 現在も、移住・定住の促進を図って、移住者も増えているというふうに聞いていますが、地元の学生や住民に残ってもらう、もしくは専門学校、大学を卒業して帰りたくなる、そしてUターン者が帰れる環境をつくるべきではないかというふうに思っています。

極端な人口増加は望めないかもしれませんが、人口減少を食いとめるために、まずは住居が必要ではないかというふうに考えております。

空き家のリフォームや公営住宅の有効活用など、住宅の充実、住める環境、住みたくなる環境を用意してはどうかと思いますが、町長の所見をお伺いしたいと思います。

議 長 (河野町長を指名)

町 長 御指摘のように、移住・定住、懸命に進めておりますけれども、その中で、御指摘がございましたように、まずは住む家、住宅の確保が一番だと、そのように、同じように理解をいたしております。

現在、町の取り組みとしては、空き家バンク制度、30年度の登録で19件ございましたけれども、成約になったのはそのうち12件がございます。

また、既に進めておりますけれども、移住をされる方の住宅の改修、補助事業ございますが、補助率3分の2、子育て世代400万限度、それから働き世代200万限度ということで、これは非常に重宝いただいております、好評でございます、これによって修繕を行って、大変快適にお暮らしの方もいらっしゃいます。

平成30年の実績は、約8件と認識をしているところでございますし、また、これからさらに新しい家をつくっていただく方には、木造住宅の補助事業も、御案内のようにございますから、ぜひぜひ家を建てる場合は、久万高原にふさわしい木造住宅を、ぜひお勧めをしないと、このことにもしっかりと支援をしてまいりたいと思っております。

以上でございます。

議 長 (熊代祐己議員を指名)

熊代議員 久万高原町総合計画でも、ひと・里・森がふれあい ともに輝く元気なまちを将来像として、ということがありますが、まちづくりは、一番に人だと思っております。

今後、超高速ブロードバンドの整備が完了し、仕事の効率化が図られたとしても、人がいるからこそ成り立つものではないかと考えています。

これからのまちづくりは、ただ単に働き手を募集するだけではなく、地元で生まれ育った子供たちを、職種によって育てていくという必要性があると思っておりますが、そのあたり、人材育成について、町の対応、対策をお聞きしたいと思います。

議 長 (河野町長を指名)

町 長 大切なことだと思っております。例えば、介護職も、今、御案内のように、募集をいたしましても、なかなか人が集まってない現状がございます。それぞれの介護福祉施設で、苦勞しながら、それぞれのてづるで呼びかけて、お願いをいたしているところでございまして、今のところ、ぎりぎりで運営をしてお

りますし、また現在の職員の方にも、長期の残業等々で大変な御負担もかけているところを、承知もいたしているところでございます。

なかなかこのことにつきましては、大変大きな課題であろうと思いますが、一つのやり方として、例えば、国家試験等々をとっていただければ、給料もそれなりに、それに合わせて上がっていくというようなことでもございますから、例えば今もございますけれども、町のほうでそれに対する支援補助金を出して、働きながら国家試験を目指していただくと、そういう制度も今ございますから、そのあたりをさらにPRしながら、この町で安心して子育てをしながら働けると、そういう環境づくりに、今後さらに努めてまいりたいと思います。

以上でございます。

議長 熊代議員、よろしいですか。

熊代議員の本件に関する質疑は、既に3回になりましたが、会議規則第55条ただし書きによって、特に発言を許します。

(熊代祐己議員を指名)

熊代議員 最後に1点だけ、町長にお伺いしたいのですが、持続可能なまちづくりについて、町長の考え方をお聞きしたいと思います。

議長 (河野町長を指名)

町長 持続可能なという言葉、よく最近聞かれます。まさに私どものまちにも当てはまる言葉と思っております。

合併のときに1万2,000人おりましたけれども、今現状、8,500を切るようなところにもあるわけございまして、さらにこれは進んでいくんだと思っておりますけども。私どもは今、庁内会議でも話し合っていることは、本当はこのまま止めたい、あるいはさらに人口を増やせればいいんだけど、現状、日本全体考えれば、なかなか難しいところはあるんだろうと。その中で、じゃあ最低、何人がいれば、今のこの町を、久万高原町として持続可能でいら

れるんだらうと。そのあたりを今、検討を始めているところでございます。

大変大事な、私どもにとってかけがえのない町でございますけれども、諦めなければ、この自治体が消滅するということは決してないと思っておりますから、熊代議員ともまた御協力もいただきながら、産業をしっかりと伸ばしながら、住んでみたい、いつまでも住み続けたい町、これはしっかりと標榜しながら、努力してまいりたいと思っております。

どうぞよろしくお願いを申し上げたいと思います。

議 長 熊代議員、よろしいでしょうか。

以上で一般質問を終わります。

議 長 お諮りします。

本日の会議はこれにて散会したいと思います。御異議ございませんか。

(異議なしの声)

議 長 異議なしと認めます。

したがって、本日の会議は、これにて散会することに決定しました。

本日はこれで散会します。 (午前11時25分)

なお、明日6月14日は、午前9時30分より開会いたします。

事務局 (終 礼)